

神奈川県・藤沢市

リハビリ用 ロボットの普及へ

公明党神奈川県議団(鈴木秀志団長)はこのほど、生活支援ロボットの研究開発・普及をめざす「さがみロボット産業特区」の拠点施設「湘南ロボケアセンター」(同県藤沢市)を視察した。

同センターは、介護ロボットの普及を推進してきた同県議団が提案していたもので、リハビリ用ロボット「HAL」を使用する施設としては全国最大規模となる。



湘南ロボケアセンターを視察する党神奈川県議団

研究・開発の拠点が始動

湘南ロボケアセンターは、リハビリ用介護ロボット「HAL」を使用したトレーニング施設と、訪問看護および通所リハビリを行う介護サービス事業所を一体的に運営する複合施設。昨年暮れ、JR辻堂駅近

くに開設された同センターは、延べ床面積281平方メートル。県からの委託を受け、リハビリをするタイプの3種類の機器が導入された。

HAL使用では国内最大級

党県議団が提案・推進 介護現場で効果検証

筑波大学発のベンチャー企業「サイバーデザイン株式会社」(茨城県つくば市)の100%出資子会社「湘南ロボケアセンター株式会社」(久野孝稔代表取締役社長)が運営している。

HALは、筋肉を動かそうとする際に発生する微弱な電流を読み取り、歩いたり座ったりする動作を補助する仕組み。世界的に注目を集めている技術の一つだが、実際に着用している現場を見

られる機会は多くないという。今回、センターには、歩行用と関節に装着するタイプ、上半身をつりながら

トレーニング施設では、リハビリの専門家や看護師がカウンセリングした結果を踏まえ、利用者ごとにメニューを作成。脊椎損傷や脳梗塞による、まひに悩む人の日常動作を補助するHALを装着することで、体をより大きく動かす運動に役立てる。

さらに今春からは、訪問看護事業とリハビリに特化したデイサービス事業を展開。在宅での療養生活を支援する訪問看護と通所リハビリを通して改善効果を検証し、ロボットの改良に結び付ける計画だ。

鈴木団長は久野社長ら関係者と意見を交換。介護・福祉ロボットの展示や情報提供、相談コーナー、運用技術の開発、人材育成などの役割を担う拠点施設の創設を提案し、早期実現を訴えてきた立場から、「現場のニーズに合ったロボット技術の開発、実用化、普及が一層進むよう、今後とも力を尽くしていく」と述べた。